

眠っている地域の宝物を見つけよう ～せつぶん草で集落の「誇りと絆」づくり～

18

想い

軌跡



集落の宝物「せつぶん草」

【主な活動実績】

平成26年3月	第1回せつぶん草祭り
平成26年12月	勉強会(同志社大学工学部 光田准教授)
平成27年2月	第2回せつぶん草祭り、勉強会(京都府立植物園 長澤園長)
平成28年3月	第3回せつぶん草祭り、勉強会(京都府立植物園 肉戸助教授)

〔参考URL〕 <https://www.facebook.com/hiyoshinakaseki/>

中世木せつぶん草を守る会 事務局長

池村 嘉浩

良いところなんかあらへん…

周辺の開発に取り残され、少子高齢化が進む人口132人の限界集落。諦めムードでなんにもない集落は、集落内の交流すら希薄だった。

集落の良いところ探しを始めよう！

「中世木は、山野草の宝庫。」地元の山野草愛好家の発言をきっかけに集落の良いところ探しが始まった。せつぶん草の群生地が発見され、地権者の「公開して地域の資源にしよう。」との声から盗掘の懸念もあったものの公開に踏み切った結果、集落の知名度がアップ！

せつぶん草は集落の自慢に！

どのようにせつぶん草を守り、
地域を盛り上げていくか。

平成26年3月に「せつぶん草祭り」を開催。参加者から寄付金を頂き運営費に充て、地元野菜の販売を行うなど、人口の4倍強の600人を集め大成功！

これからも群生地の草刈りなどを集落全体で取り組み、せつぶん草を保全していきたい。

せつぶん草のある活気あるところに住みたい！

平成28年には、群生地の景観に惚れた3世帯9人がIターン。子供の誕生もあり、限界集落から脱出！

どこかに眠っている宝物があるはず。

ただの雑草だったせつぶん草も見方を変えれば地域の誇りとなった。

限界集落など同じ悩みを持っている皆さん、諦めずに眠っている地域の誇りとなる宝物を探してほしい！

「気負わず、背負わず、皆と楽しく」談



せつぶん草を観察する
祭り参加者



集落の方々により盛り上がる
せつぶん草祭り
(地元野菜の販売会)



池村 嘉浩